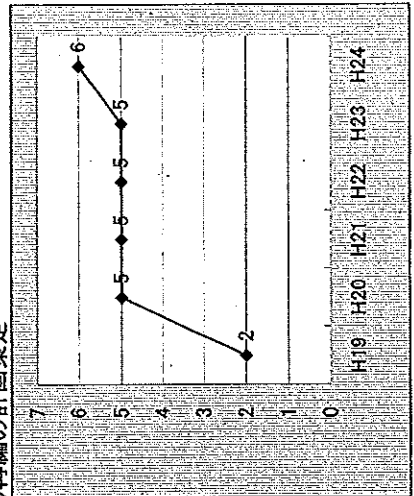


基本方針3 信頼される教育環境の実現

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
60	活力と魅力ある学校づくり	<p>「中高一貫教育」の全県展開 ○「中高一貫教育」の全県展開</p> <p>教育戦略課題</p>	<p>「中等教育の一層の多様化」を推進し、「生徒一人ひとりの個性」をより重視した教育の実現</p> <p>平成22年4月に富岡東高校の併設型中高一貫教育校としての富岡東中学校を開設した。城ノ内中学校・高等学校は、「探究教学」の開設、川島中学校・高等学校は中高生間の対話集会、富岡東中学校・高等学校は、朝夕の「富東タイム」の設定等、各校が、中高一貫教育の特性を生かした教育に取り組んでいる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>100%</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【平成24年度の評価】「実用英語技能検定」をはじめとする資格取得について成果が現れている。 ○【5年間のまとめ】併設型中高一貫教育校を全県に展開しており、中等教育の多様な選択枝を提供している。 <p>今後の取組及び方向性</p> <p>これまでの効果や課題を検証し、中高一貫教育の特性を一層生かせるように教育活動の充実を図っていく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	2	2	2	3	3	3	100%	3
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
2	2	2	3	3	3	100%	3												
61	活力と魅力ある学校づくり	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>徳島科学技術高等学校の開校 ○徳島科学技術高等学校の設置</p> <p>教育戦略課題</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>科学技術の高度化・複合化に対応した、産業界の要望に応える技術者の育成</p> <p>平成21年4月に徳島科学技術高等学校を開校した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>準備</td> <td>開校</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>→</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>取組状況</p> <p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○【平成24年度の評価】社会の養成に対応しうる、実践力を身につけた技術者の養成を行っている。 ○【5年間のまとめ】平成21年4月の徳島科学技術高等学校の開校により、高度情報化などの様々な社会の変化や科学技術の高度化・複合化に対応できる実践力を身につけた人材の養成が図られた。 <p>今後の取組及び方向性</p> <p>これまでの効果や課題を検証し、社会の変化に対応できる技術者の育成を図っていく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	準備	開校	→	→	→	達成	開校
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
-	準備	開校	→	→	→	達成	開校												

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
62	事業名、数値目標実績 オンリーワンハイスクールの育成 ○「地域の教育・文化の創造拠点」としてのオンリーワンハイスクールの育成	事業目的 各学校がこれまでに培ってきた特色ある教育活動や地域との結びつきを生かして、主体的、積極的に、地域貢献を行い、地域の活性化を図り、学校と地域の好循環を形成するように支援する。また、これまでの実施校から地域が一目置く取組が誕生していることに注目し、全国に発信できる徳島ならではの取組を行う日本のオンリーワンハイスクールの取組を支援する。																
	取組状況 県立高校と特別支援学校の高等部を対象に希望校を募集し、書類審査及びプレゼンテーション審査により、全国ステップ挑戦1校、地域貢献挑戦7校の実施校8校を選定した。全国ステップ挑戦実践校は、全国に発信できる活動を行い、地域貢献実践校は、積極的に地域貢献を進めた。また各実施校は、学校ホームページや新聞等のメディアを活用した情報発信にも積極的に取り組んだ。2月には、実施校が1年間の活動成果を発表する生徒活動発表会(展示及びプレゼンテーション)を開催した。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
—	推進	推進	推進	推進	推進	—	推進											
	評価 ○【平成24年度の評価】全国ステップ挑戦実践校は、「県内の企業・団体に対するWebページ支援」や「企業の付加価値を上げるための映像作成」などを行った。地域貢献実践校は、「阿波藍の伝統技術の普及活動」、「LED誘導灯製作などのものづくり」、「地域のNPO法人与自然と連携してのサクラの増殖や公園づくり」など、独自の計画を実践し、ホームページや学校新聞等で情報を発信しながら、魅力ある学校づくりとともに生徒の学習意欲や勤労意欲の向上などにつなげることができた。																	
	今後の取組及び方向性 ○【5年間のまとめ】オンリーワンハイスクール事業は延べ51校による魅力ある学校づくりから、第2期を迎え延べ36校による学校での活動内容と情報を地域へ発信し地域連携に努めてきました。平成22年からの第3期では、延べ29校が今までの培った取組をもとに、地域との連携を強化し地域の活性化の一助を担う活動や情報発信を全国へ発信でき、今までの成果を生かした学校独自の取組が誕生した。																	
	今後の取組及び方向性 これまでのオンリーワンハイスクールの育成を図るため、全国、そして世界を目指しながら、学校独自の取組や研究を支援していく。																	
63	事業名、数値目標実績 高校再編の推進 ○再編の計画策定	事業目的 高等学校が将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくための、魅力ある学校づくりを推進する。																
	取組状況 「鴨門市」及び「吉野川市・阿波市地域」では、平成24年4月に「鴨門高湖高等学校」及び「吉野川高等学校」を開校した。「美馬市・つるぎ町地域」では、つるぎ高等学校の開校準備、「勝浦郡地域」及び「那賀町地域」では、活性化策を進めた。また、「三好市・東みよし町地域」では、平成25年3月に再編計画を策定し、「阿南市地域」では、再編計画の骨子(案)をもとに検討を進めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>85.7%</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	2	5	5	5	5	6	85.7%	7
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
2	5	5	5	5	6	85.7%	7											
	評価 ○【平成24年度の評価】再編計画等を策定している5地域のうち2地域で新高校を開校し、1地域で、新高校の開校に向けた準備を着実に進めることができた。また残る1地域について、平成25年3月に再編計画を策定した。																	
	今後の取組及び方向性 ○【5年間のまとめ】再編計画等を6地域で策定し、活力と魅力ある学校づくりに向けた取組を推進した。																	
	今後の取組及び方向性 「三好市・東みよし町地域」では、準備委員会を設置し、平成29年度の再編統合に向けた準備を進めるとともに、「阿南市地域」では再編計画の策定に向けた取組を推進する。																	
	教育戦略 ○【第2期計画】5-2-1「新たな高校教育の創造」【再編高校の開校】																	



番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																																
64	活力と魅力ある学校づくり	高校再編の推進 ○再編計画に基づく新しい学校の設置 H24 鴨島商業高等学校・阿波農業高等学校の開設 校を統合した吉野川高等学校の開設 H24 鳴門第一高等学校・鳴門工業高等学校を統合した鴨門渦潮高等学校の開設 H26 貞光工業高等学校・美馬商業高等学校を統合する新しい高等学校の開設	事業目的 高等学校が将来にわたり多様な教育や部活動を実施し、活力ある教育活動を展開していくための、魅力ある学校づくりを推進し、時代に対応した新学科等の設置や学科再編等を行う。 平成24年4月に鴨門渦潮高等学校及び吉野川高等学校が開設し、本県初の体育科となる「スポーツ科学科」や教育の伝統を継承し、融合・発展させた「武七わか科」等の学習がスタートした。また、平成26年度に貞光工業高等学校と美馬商業高等学校を再編統合して開設する新高校について、つるぎ高等学校と校名を決定した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吉野川高等学校</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>開校</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> <tr> <td>鴨門渦潮高等学校</td> <td>—</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>開校</td> <td>達成</td> <td>開校</td> </tr> <tr> <td>貞光工業商業新高等学校</td> <td>—</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>準備</td> <td>—</td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】2校を開校するとともに、平成26年度をつるぎ高等学校の開校に向け開校準備委員会を中心に開校準備を進めることができた。 ○【5年間のまとめ】再編計画に基づき2校を開校するとともに、つるぎ高等学校の平成26年度開校に向けた準備を着実に進めた。 吉野川高等学校について、土成農場内の旧耐震施設の機能移転を図るとともに、平成26年4月の「つるぎ高等学校」開校に向けた取組を推進する。 ○【第2期計画】5-2-1「新たな高校教育の創造」【再編高校の開校】 事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 本県の農業・商業教育の目指すべき方向を明らかにするとともに、農業・商業教育のより一層の活性化を図り、その実現に向けた計画を推進する。 平成23年3月に「徳島県農業教育活性化プラン」及び「徳島県商業教育活性化プラン」を策定し、本県農業・商業教育の活性化に向けた取組として6つの方策を掲げ、それぞれの項目についての具体的な推進策に基づき、各農業科・商業科設置高等学校が数値目標を立てて取り組んでいる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>策定</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>達成</td> <td>策定・推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】「スペシャリストの育成を目標とした学科の再編」に基づき、阿波農業高等学校と鴨島商業高等学校が再編統合され、吉野川高等学校が開校した。また、小松島西高等学校が開設した。徳島商業高等学校及び三好高等学校においても学科再編がなされた。また、「産学官連携による実践的な農業・商業教育の推進」に基づき、産学官連携による事業を実施した。その他の各農業科・商業科設置高等学校は、具体的な活性化策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けて取り組んだ。 ○【2年間のまとめ】新高校の開校や学科再編がなされた。また、農業・商業科設置高等学校において、各校独自に活性化策を掲げるとともに数値目標を定め様々な取組をおこなって成果を挙げている。 今後の取組及び方向性 活性化プランにおける推進策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けた各農業科・商業科設置高等学校の計画的な取組を支援する。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	吉野川高等学校	準備	準備	準備	準備	開校	達成	開校	鴨門渦潮高等学校	—	準備	準備	準備	開校	達成	開校	貞光工業商業新高等学校	—	準備	準備	準備	準備	—	開校	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	策定	推進	推進	達成	策定・推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																												
吉野川高等学校	準備	準備	準備	準備	開校	達成	開校																																												
鴨門渦潮高等学校	—	準備	準備	準備	開校	達成	開校																																												
貞光工業商業新高等学校	—	準備	準備	準備	準備	—	開校																																												
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																												
—	—	—	策定	推進	推進	達成	策定・推進																																												
65	活力と魅力ある学校づくり	事業名、数値目標実績 専門教育の活性化 ○農業・商業教育の活性化プランの策定や中心校を核としたネットワーク化による役割分担と連携強化	事業目的 本県の農業・商業教育の目指すべき方向を明らかにするとともに、農業・商業教育のより一層の活性化を図り、その実現に向けた計画を推進する。 平成23年3月に「徳島県農業教育活性化プラン」及び「徳島県商業教育活性化プラン」を策定し、本県農業・商業教育の活性化に向けた取組として6つの方策を掲げ、それぞれの項目についての具体的な推進策に基づき、各農業科・商業科設置高等学校が数値目標を立てて取り組んでいる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>策定</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>達成</td> <td>策定・推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】「スペシャリストの育成を目標とした学科の再編」に基づき、阿波農業高等学校と鴨島商業高等学校が再編統合され、吉野川高等学校が開校した。また、小松島西高等学校が開設した。徳島商業高等学校及び三好高等学校においても学科再編がなされた。また、「産学官連携による実践的な農業・商業教育の推進」に基づき、産学官連携による事業を実施した。その他の各農業科・商業科設置高等学校は、具体的な活性化策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けて取り組んだ。 ○【2年間のまとめ】新高校の開校や学科再編がなされた。また、農業・商業科設置高等学校において、各校独自に活性化策を掲げるとともに数値目標を定め様々な取組をおこなって成果を挙げている。 今後の取組及び方向性 活性化プランにおける推進策に基づき、農業・商業教育の活性化に向けた各農業科・商業科設置高等学校の計画的な取組を支援する。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	策定	推進	推進	達成	策定・推進																																
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																																												
—	—	—	策定	推進	推進	達成	策定・推進																																												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
66	活力と魅力ある学校づくり	産学官連携による産業教育の推進 ○産業界や県の研究機関と連携し、専門教育の充実や異なる学科間での連携	事業目的 産業界の要望に対応できる技術者や地域産業を担う後継者を育成する。																
			取組状況 ①6次産業実践プロジェクトでは、吉野川高校の農業科と商業科が連携し、地域の農産物を活用して、商品開発から販売までを実施した。 ②地域資源再発見プロジェクトでは徳島商業高校が、地域の活性化や地域貢献のために、「親子アンパンマンバスツアー」を企画し、B級グルメフェスティバル、影絵人形劇、お菓子ラッピング体験などを盛り込んだツアーを行った。 ③産学官連携実学モデル事業では、阿南工業高校、小松島高校、三好高校が企業と連携した取り組みを実施し、LEDを活用してのペーパーサライット電光掲示板の製作や塩こうじアイスの開発、酒造りへの取組など専門性の高い内容を実践した。 ④専門学校での取組を広く県民に知らせるために、徳島県高校生産業教育フェアを文化の森総合公園で開催するとともに、企業等が出席する徳島ビジネスサテライトで展示・発表を行うことにより、企業等との連携を促進することができた。																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	—	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	—	推進	推進	—	推進												
			評価 ○【平成24年度の評価】産業界や県の研究機関等と連携した教育の展開や、学科の異なる専門高校間の連携で専門分野のさらなる視野の拡大による教育を行うことができた。 また、それらの成果を企業等の方々や県民に広く周知することができ、産業教育の推進を積極的に図ることができた。 ○【2年間のまとめ】産業界や県の研究機関等と連携による実践的な取組や異なる学科間の連携による取組により高校生の専門性を高めることにも、その活動を積極的に活用して相互交流を推進することにより、専門性を身につけた社会の進化に対応できる人材を育成することができた。																
			今後の取組及び方向性 引き続き、産学官連携による産業教育の推進を図るため、より主体的・実践的な事業に取り組む。																
番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
67	私立学校の振興	私立学校の振興 ○私立学校の健全な発達の支援・低所得世帯への修学支援	事業目的 公教育の一環を担う私立学校は、それぞれ建学の精神に基づく独自の教育を通じて県民に多様な教育サービスを提供しており、県民が安心して私立学校を選択できるよう、私立学校の経営の安定及び保護者負担の軽減を図る。																
			取組状況 私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行うとともに、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会均等を確保するため、高等学校等就学支援金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>—</td> <td>支援</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	支援	支援	支援	支援	支援	—	支援
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	支援	支援	支援	支援	支援	—	支援												
			評価 ○【平成24年度の評価】高等学校等授業料軽減事業補助金の制度拡充により保護者の経済的負担の軽減が図られた。 ○【5年間のまとめ】補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。																
			今後の取組及び方向性 引き続き、私立学校の振興と教育条件の向上、修学上の経済的負担の軽減、経営の健全性の向上を支援する。 ○【第2期計画】5-3-1「私立学校の健全運営と魅力ある学校づくり」【私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保】																

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的	事業目的	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
68	私立学校の振興	私立学校の振興 ○私立学校の特色づくり、魅力アップ、子育て支援と地域貢献促進、情報発信力強化の支援	総務課	事業目的	<p>私立学校の特色づくり、魅力アップ、子育て支援と地域貢献促進、情報発信力の強化を支援する。</p> <p>私立学校の生命線である「特色づくり」に対する支援として、「輝く私学推進事業」を行い、私立学校の魅力アップや、預かり保育等の子育て支援の充実に取り組み私立学校を支援した。</p> <table border="1"> <tr> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>達成率</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>支援</td> <td>—</td> <td>支援</td> </tr> </table> <p>○【平成24年度の評価】「輝く私学推進事業」の実施により、私立学校の特色ある教育活動の充実が図られた。 ○【5年間のまとめ】「輝く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。 私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、延長保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援するとともに、本県私立学校教育の認知度を高めるため、情報発信力の強化を支援する。 ○【第2期計画】5-3-1「私立学校の健全運営と魅力ある学校づくり」【私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保】</p> <p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>果教育の全体の向上に向けた施策や取組が最大の効果を発揮するために、公私立高等学校間の機能分担や連携を強化する。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	支援	支援	支援	支援	支援	—	支援
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値														
—	支援	支援	支援	支援	支援	—	支援														
69	私立学校の振興	私立学校の振興 ○公私立学校間の意思疎通の活性化、連携・機能分担の強化	総務課 教育戦略課	事業目的	<p>公私立高等学校連絡協議会等を開催し、公私立学校間での情報共有、意見交換を行う等、連携強化に努めた。 また、公立高等学校の入試説明会において、私立高校の入試説明を実施した。 ・協議会 H24.10.16 ・第1回幹事会 H24.6.5 ・第2回幹事会 H24.9.10</p> <table border="1"> <tr> <td>H19</td> <td>H20</td> <td>H21</td> <td>H22</td> <td>H23</td> <td>H24</td> <td>達成率</td> <td>目標値</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>促進</td> <td>促進</td> <td>促進</td> <td>促進</td> <td>促進</td> <td>—</td> <td>促進</td> </tr> </table> <p>○【平成24年度の評価】10月に「公私立高等学校連絡協議会」を開催し、公立・私立の関係者が情報共有、意見交換を行った。 ○【5年間のまとめ】公立・私立の関係者がそれぞれの現況や課題について協議することにより、意思疎通、相互理解が図られた。 本県高校教育の一層の充実、振興を図るため、公私立高等学校連絡協議会等を開催し、公立学校・私立学校の関係者が公民間にある様々な問題について協議し、相互理解と連絡調整を図る。 公私立学校間での機能分担、連携を強化するため、幹事会において公私連携推進策の検討を行い、連携強化の基盤整備を進めていく。 ○【第2期計画】5-3-2「公私立高等学校間の連携・機能分担」【公私立高等学校連絡協議会の開催】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	促進	促進	促進	促進	促進	—	促進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値														
—	促進	促進	促進	促進	促進	—	促進														

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																		
70	<p>事業名の向上 教職員の資質の向上 初任者研修、授業力向上研修、教職5年次研修、10年経験者研修、リーダーシップ養成研修の実施</p>	<p>事業目的 教職員のライフステージに応じた研修を体系的・計画的に実施し、「新たな教育課題への対応」や「専門的な知識や技能の習得」をめざすことにより、教職員の資質向上を図る。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>継続実施</td> <td>継続実施</td> <td>継続実施</td> <td>継続実施</td> <td>継続実施</td> <td>継続実施</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p> ○初任者研修(幼・小・中・高・特別支援学校の教諭、養護教諭、学校栄養職員)実施 受講者数 192名 ○授業力向上研修(小・中・高・特別支援学校の教諭、養護教諭)実施 受講者数 340名 ○教職5年次研修(小・中・高・特別支援学校の教諭、養護教諭)実施 受講者数 131名 ○10年経験者研修(幼・小・中・高・特別支援学校の教諭、養護教諭、学校栄養職員)実施 受講者数 101名 ○リーダーシップ養成研修(小・中・高・特別支援学校の主任教諭・指導教諭)実施 受講者数 149名 </p> <p> 評価 ○【平成24年度の評価】教職員のライフステージに応じた研修課題を明確にするとともに、それぞれの期間に受講する研修に系統性・連続性をもたせることにより、「受講者が目的意識をもった主体的な研修」とすることができた。また、受講者にアンケート調査を実施することにより、更なる研修内容の充実を図った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>研修名</th> <th>満足度</th> <th>活用度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初任者</td> <td>(99.1) %</td> <td>(98.1) %</td> </tr> <tr> <td>授業力向上</td> <td>(98.9) %</td> <td>(99.4) %</td> </tr> <tr> <td>教職5年次</td> <td>(99.3) %</td> <td>(99.7) %</td> </tr> <tr> <td>10年経験者</td> <td>(97.0) %</td> <td>(96.4) %</td> </tr> <tr> <td>リーダーシップ養成</td> <td>(94.3) %</td> <td>(99.0) %</td> </tr> </tbody> </table> ○教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、限られた校外研修時間で、より効果的な研修を行う必要がある。 ○受講者数の増加により、少人数によるきめ細かな指導ができていくようになってきている。 ○【5年間のまとめ】「新たな教育課題への対応」や「専門的な知識や技能の習得」をめざし、ライフステージに応じた研修を体系的・計画的に実施することにより、教職員の資質向上を図ることができた。また、効果的な研修をめざし、受講者アンケートをもとに、研修内容や方法の改善や受講日数の縮減などによる負担軽減にも取り組み、満足度や活用度のポイントも全体的に高めることができた。 </p> <p> 今後の取組及び方向性 各研修が、学校現場における教育活動に有効に反映され、児童生徒の学びや育ちに役立つよう、研修内容のさらなる充実を図る。また、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保するため、受講日数の絞り込みやサテライト方式での実施等、効率的・効果的な研修を実施する。これらを踏まえ、引き続き、効果検証、研修内容及び研修体系の見直し・改善を実施することにより、教職員の資質の向上に努める。 </p> <p style="text-align: right;">教職員課</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	—	推進	研修名	満足度	活用度	初任者	(99.1) %	(98.1) %	授業力向上	(98.9) %	(99.4) %	教職5年次	(99.3) %	(99.7) %	10年経験者	(97.0) %	(96.4) %	リーダーシップ養成	(94.3) %	(99.0) %
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																													
継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	継続実施	—	推進																													
研修名	満足度	活用度																																		
初任者	(99.1) %	(98.1) %																																		
授業力向上	(98.9) %	(99.4) %																																		
教職5年次	(99.3) %	(99.7) %																																		
10年経験者	(97.0) %	(96.4) %																																		
リーダーシップ養成	(94.3) %	(99.0) %																																		

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
71	教職員の資質の向上 71 新	<p> 事業目的 基本研修等において、コンプライアンス研修を計画的に実施するとともに、各公立学校に配置されているコンプライアンス推進員を牽引役として、所属の実態等に応じた研修を行い、所属教職員のコンプライアンス意識のより一層の充実を図る。 </p> <p> 取組状況 </p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td> 小学校 3.3回 中学校 3.6回 県立学校 5.5回 </td> <td> 小学校 110% 中学校 120% 県立学校 183% </td> <td> 研修会を各所属 で年間3回以上 開催 H24新規 </td> </tr> </tbody> </table> <p> 評価 </p> <p> ○【平成24年度の取組】コンプライアンス意識醸成の取組も4年目を迎え、定着しつつある。各所属における研修の回数は年々増加しており、提供した研修ツールも積極的に活用された。上記の回数は、「コンプライアンス研修単独」での研修会であり、「他の研修とあわせた研修」を含めると、小学校(7.5回)、中学校(8.9回)、県立学校(9.0回)となっている。 </p> <p> 今後の取組及び方向性 </p> <p> これまでの研修用資料として毎年、コンプライアンスハンドブック及びケース集を発行してきた。今後は、各所属の実践事例を紹介するとともに、時宜を得たテーマを設定しての資料提供を行う。また、コンプライアンス推進室から講師を派遣して各所属におけるコンプライアンス研修の充実を図る。 </p> <p> ○【第2期計画】5-4-2「教員の資質能力向上」【各県立学校・市町村教育委員会におけるコンプライアンス研修(要請)の実施回数(累計)】 </p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	-	小学校 3.3回 中学校 3.6回 県立学校 5.5回	小学校 110% 中学校 120% 県立学校 183%	研修会を各所属 で年間3回以上 開催 H24新規
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
-	-	-	-	-	小学校 3.3回 中学校 3.6回 県立学校 5.5回	小学校 110% 中学校 120% 県立学校 183%	研修会を各所属 で年間3回以上 開催 H24新規											

コンプライアンス推進室

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
72	教職員の資質の向上	事業名の資質の向上 教職員の資質の向上 ○精神科医等による相談事業やメンタルヘルスマネジメントセミナー等の実施	事業目的 教職員の悩みや心配事の相談に際し、その解決策を支援するため専門機関によるカウンセリング等相談や出前講座を実施している。さらに、職員がメンタルヘルス不調に気づき、適切な相談対応を行うことができる管理職を養成するために管理者支援講座を実施している。 また、教員の職場復帰後のメンタル不調の再発を防止するために、平成24年度から「教職員職場復帰支援事業」を実施している。																
			取組状況 メンタルヘルス1次予防として各学校において実施している「教職員相談事業出前講座」は平成24年度、希望校13校(延べ人数462名)で実施することができた。また、メンタルヘルスマネジメント研修においては平成24年度311名の管理職が研修に参加し、ライオンケアの充実を図っている。公立学校共済組合徳島支部と共催したメンタルヘルスマネジメントセミナーなども多数の参加があった。 2次予防として実施している平成24年度の教職員相談事業の相談件数は、前年度より60件減少し95件であった。 3次予防として実施した「教職員職場復帰支援事業」では、教員の職場復帰後、在籍校に臨床心理士を派遣し、復帰者や管理職と面談を行い、具体的な対応への援助を行っており、平成24年度は10名の復帰教員に対して実施した。																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進												
			評価 ○【平成24年度の評価】これまで実施してきた1次予防、2次予防に加え、3次予防としての「教職員職場復帰支援事業」の実施は、教員の職場復帰後のメンタルヘルスの保持増進に役立った。この事業を継続し、実態の把握をすすめ、復職後の課題と有効な支援策を調査研究する必要がある。 ○【5年間のまとめ】ペンフレット等の配布により、メンタルヘルスマネジメント事業が教職員へ浸透しつつあり、メンタルヘルスマネジメントの向上や理解に取り組み教職員が増加してきている。 目に見える成果が表れにくい課題であるが、継続的にねばり強く実施していく。																
			今後の取組及び方向性 ○【第2期計画】5-4-3「メンタルヘルス・健康維持」【精神科医等による相談事業、メンタルヘルスマネジメントセミナー、職場復帰支援事業等の実施】																
番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
73	教職員の資質の向上	事業名の資質の向上 教職員の資質の向上 ○特定健康診査・特定保健指導への積極的な対応による教職員の健康の保持増進	事業目的 特定健診、特定保健指導は、国民的課題である糖尿病等生活習慣病対策及び医療費抑制等を目的としている。																
			取組状況 労働安全衛生法及び学校保健安全法の定める定期健康診断については、受診義務があるため、全教職員が受診するよう各学校に要請し、平成24年度の定期健康診断受診者数及び受診率(県立学校及び事務局職員)は3,120名(99.7%)となった。平成20年度から開始された40歳以上の特定健康診査においては、定期健康診査のデータを特定健康診査に活用するにとともに、各所属と連携し特定保健指導を推進している。																
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進												
			評価 ○【平成24年度の評価】定期健康診断受診率が99.4%(平成23年度)から99.7%に上昇したことは、設置者の義務を果たすことや教職員の健康増進に役立った。 ○【5年間のまとめ】特定健康診査については定期健康診断データを活用し受診率が向上したが、その結果を受けての特定保健指導の実施については、なお事業の周知徹底に努める必要がある。																
			今後の取組及び方向性 ○【第2期計画】5-4-3「メンタルヘルス・健康維持」【特定健康診査・特定保健指導への積極的な対応による教職員の健康の保持増進】																

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																		
74	<p>安全・安心な学校づくり</p> <p>○ 県立高等学校施設耐震化率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成率</td> <td>46%</td> <td>59%</td> <td>62%</td> <td>73%</td> <td>74%</td> <td>79%</td> <td>98.8%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	達成率	46%	59%	62%	73%	74%	79%	98.8%	80%	<p>事業目的 県立高校は、その多くが災害時の避難場所指定されており、地震発生時の生徒の安全確保はもちろんのこと、地域住民の応急避難場所としての役割を果たすことから、全ての学校施設の耐震化を計画的に推進する。</p> <p>取組状況 災害に強い安全な学校施設の整備、教育ニーズに対応した良好な教育環境を提供するため、「県立学校耐震化計画」に基づき、県立学校施設の耐震化を計画的に推進した。 県立学校耐震診断実施率(優先度調査を含む)は平成18年度までで100%となっており、平成24年度末までの耐震改修実施校数(累計)は15校、改築実施校数は9校となっており、ほぼ順調に事業が行われている。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度当初予算に加え、9月補正予算、2月補正予算により、耐震化を加速した。 ○【5年間のまとめ】県立学校耐震化計画に基づき、耐震化事業を計画的に実施した結果、平成24年度末の耐震化率は約79%となり、着実に耐震化を進めている。 県立学校再編の対象校については、今後、再編方針を考慮しながら耐震化事業を検討していく必要がある。</p> <p>今後の取組及び方向性 平成27年度の耐震化率100%に向けて、コスト削減を図りながら、耐震化と併せて施設の老朽化対策にも取り組む。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」【学校施設耐震化率】</p>
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
達成率	46%	59%	62%	73%	74%	79%	98.8%	80%												
75	<p>安全・安心な学校づくり</p> <p>○ 小・中学校施設耐震化率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>達成率</td> <td>48%</td> <td>55%</td> <td>64%</td> <td>77%</td> <td>86%</td> <td>91%</td> <td>107.1%</td> <td>85%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	達成率	48%	55%	64%	77%	86%	91%	107.1%	85%	<p>事業目的 公立小中学校は、児童・生徒の安全確保に併せて、災害時の避難場所としての機能が求められていることから、全ての学校の耐震化を計画的に推進する。</p> <p>取組状況 平成20年度に「公立小中学校施設耐震化緊急支援制度」を創設し、市町村の財政支障の軽減を図っている。 また、耐震化工事における技術的な支援をする「市町村公共施設耐震化促進支援センター」との連携を図り耐震化の推進に努めている。 平成24年度末の耐震化事業完了校数は約480棟であり、ほぼ順調に事業が行われている。</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度当初予算に加え、予備費、補正予算により、耐震化を加速した。 ○【5年間のまとめ】耐震化事業は計画的に実施されており、文部科学省発表資料によると、平成25年4月1日現在の県内の公立小中学校の耐震化率は91.3%で全国平均を約2ポイント上回っている。</p> <p>今後の取組及び方向性 平成27年度の耐震化率100%に向けて、耐震化が進んでいる市町村については、個別に指導・助言を行う。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」【学校施設耐震化率】</p>
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
達成率	48%	55%	64%	77%	86%	91%	107.1%	85%												

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
76 新	安全・安心な学校づくり	事業名、数値目標実績 「拠点避難所」となる県立学校等の整備を推進 ○避難所整備 施設整備課	事業目的 東日本大震災の教訓により、中核的な避難所となる県立学校において、生活水や非常用電源などのライフラインを確保するため、ろ過装置付き雨水タンクや屋外LED太陽光照明灯等を計画的に整備する。 平成23年度に、「県立学校避難所施設強化・充実事業」を予算化し、富岡東高校と海部高校をモデル校として整備した。その成果を踏まえ、平成24年度には、津波浸水が予測される11校を対象として重点的に整備した。 取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】津波浸水が予測される成東高校等11校を対象として整備した。 ○【2年間のまとめ】平成23年度から事業を開始し、津波浸水が予測される学校から整備を進めている。 今後の取組及び方向性 「県立学校避難所施設強化・充実事業」において、太陽光発電装置、屋外LED太陽光照明灯、ろ過装置付き雨水タンクなどを、平成30年度までに順次、各県立学校に設置していく。 ○【第2期計画】5-1-1「自然災害から命を守る教育環境の整備」【県立学校避難所施設強化・充実事業の実施校】	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	-	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
-	-	-	-	-	推進	-	推進												
77	安全・安心な学校づくり	事業名、数値目標実績 学校安全ボランティア(スクールガード)活動の充実 ○スクールガードリーダー委嘱人数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24</td> <td>24</td> <td>33</td> <td>24</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>45.5%</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table> 体育学校安全課	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	24	24	33	24	26	20	45.5%	44	事業目的 子どもたちが安全・安心して教育が受けられるよう、学校や通学路の子どもの安全確保を図るため、家庭や地域の関係機関・団体と連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。 市町村にスクールガードリーダー約9,400名のスクールガードが登下校時の見守り活動を実施した。また、学校安全ボランティア(スクールガード)の養成に努め、県内小学校校区で約9,400名のスクールガードが登下校時の見守り活動を実施した。 取組状況 ○【平成24年度の評価】スクールガードリーダー及びびスクールガードの配置を市町村に依頼するとともに、スクールガードリーダー連絡協議会を実施し情報交換を行った。 ○【5年間のまとめ】見守り活動により不審者情報は減少しているが、依然、報告はされており、今後も見守り活動を強化していく必要がある。事業の補助事業化に伴い、市町村の財政的負担が必要となり、市町村独自の見守り体制で対応する市町村が増えてきた。 評価 スクールガードリーダー連絡協議会を実施し、登下校時の事故防止等について情報交換を行い、幼児・児童生徒の安全確保について整備をしていく。全ての小学校区においてスクールガードの見守り活動を行い、安全マップの活用や不審者情報の連絡体制の整備をすすめる。 スクールガードの登録数については、小学校数の減少に伴い、減少している。平成25年2月では、9,411人のスクールガードが、25年5月では9,306人である。これからも、見守り活動を強化し、少しずつ人数を増やしていく。 ○【第2期計画】5-1-3「登下校・部活動・体育授業時の安全確保」
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
24	24	33	24	26	20	45.5%	44												

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
78	防災教育の充実 ○ 防災教育推進モデル校数 	事業目的 児童生徒の「自らの安全を守るための実践的防災対応能力の向上」と「災害時に互いに助け合うための防災教育の推進」に取り組んできた。 取組状況 平成17年度から5年間、県下の小・中・高・特別支援学校24校を「防災教育推進モデル校」に指定し、「児童生徒一人ひとりの実践的防災対応能力の向上」と「災害時に互いに助け合うための防災教育の推進」を旨として地域の特性に応じた防災教育に取り組む、防災意識の高揚や発災時の実践力の向上に大きな成果を上げてきた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18</td> <td>21</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100%</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】児童生徒の防災意識はもとより、学校が核となり、地域と連携した「避難訓練」などの取組みが行われ、地域の防災意識が向上した。 ○【5年間のまとめ】推進モデル校の取組みの中から、各学校で使用できる内容をまとめた冊子「地域とつなぐ防災教育」を作成し、県内の学校へ配付した。各学校では本冊子を活用し地域や学校の実情に応じた防災教育を実施した。 今後の取組及び方向性 学校単独で避難訓練を行うのではなく、地域社会や関係機関と合同で訓練を行うことで、地域と連携した防災意識の向上を図る。 毎月の学校における「安全の日」の点検作業、防災の日・防災週間などの地域における行事との連携、防災に関する作文・標語・ポスターや防災マップづくりへの積極的な参加など、日常の教育活動との連携を図る。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	18	21	24				100%	24
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
18	21	24				100%	24											
79	防災教育の充実 ○ 学校と地域の自主防災組織等の連携を図る「あわ防災推進事業」の実施 安全・安心な学校づくり	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 児童生徒の防災ポテンティアル意識を高め学校や地域の防災力を高めるため、学校が地域の自主防災組織と連携した防災教育を推進する。 事業目的 学校と地域が連携した防災教育の必要性を啓発するとともに、各校で実施する際の手引き書「地域とつなぐ防災教育」を活用し、避難訓練や避難所体験に支援側として参画する取組を展開するなど、地域に安全・安心のネットワークの輪を広げるとともに、県内の小・中・高・特別支援学校で防災教育に取り組んだ。 取組状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>-</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 評価 ○【平成24年度の評価】冊子「地域とつなぐ防災教育」の活用について呼びかけるとともに、教員対象の防災研修会を実施してきた。 ○【3年間のまとめ】「児童一人ひとりの実践的防災能力の向上(自助)」と「災害時に互いに助け合うための防災ポテンティアル意識の向上(共助)」を旨として地域の特性に応じた防災教育を実施し、児童生徒のみならず、地域全体の防災力の向上に大きな効果があることが確認できた。 今後の取組及び方向性 各学校において、冊子「地域とつなぐ防災教育」を活用した防災教育の推進と充実を図るとともに「学校防災研修会」を開催し教職員の研修に努めるとともに、防災教育の担い手として教員の育成を図る。	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	推進	推進	推進	-	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
-	-	-	推進	推進	推進	-	推進											

番号	事業名、数値目標実績	事業目的	取組状況	評価	今後の取組及び方向性																	
80	事業名、数値目標実績 防災教育の充実 ○学校における防災教育の充実	事業目的 児童生徒の実践的防災対応能力や防災ボランティア意識の向上を目指して、学校における防災教育を推進する。	県内すべての小・中・高・特別支援学校で、各教科・道徳・特別支援活動全体を通じて計画的に防災教育を推進した。また、「学校防災研修会」を開催し、教員の研修に努めた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> <td>—</td> <td>全小・中・高・特別支援学校で推進</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	—	全小・中・高・特別支援学校で推進	○【平成24年度の評価】防災教育指導資料を全面改訂し、各学校へ配付し、各学校における防災教育の充実を求めた。 ○【5年間のまとめ】南海トラフ巨大地震に備え、各学校においては防災計画を見直しとともに、避難訓練をはじめとした地域や学校の実情に応じた防災教育が行われた。	今後の取組及び方向性 発災時に、児童生徒が自らの安全確保はもとより、周りの人々や地域の安全のために何ができるとかを考え、実践できるよう、地域や関係機関と連携した取組を進める。
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値															
—	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	全小・中・高・特別支援学校で推進	—	全小・中・高・特別支援学校で推進															
81	事業名、数値目標実績 防災教育の充実 ○県立学校における「防災クラブ」の設置	事業目的 高等学校に「防災クラブ」を置き、高校生が行う防災ボランティア活動や地域と連携した防災活動を推進するとともに、避難所支援ができる知識や技能を習得させ、地域防災の即戦力となる人材を育成する。	取組状況 平成23年度から5校ずつ防災クラブ設置校を増やし、設置校では避難訓練や炊き出しなど、地域を巻き込んだり、活動や高年齢者宅での家具転倒防止器具の設置など、将来の防災の担い手を育成している。洪水や土砂災害の想定される地域を含め、新たに5校追加した10校で「防災クラブ」を設置し、地域や学校の状況に応じた取組を実施している。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>100%</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	—	5	10	100%	10	○【平成24年度の評価】津波被害に加え、土砂災害が懸念される県央・県西部を含めた地域から新たに5校を加え、計10校で防災クラブを設置し、将来の防災の担い手を育成をめざして取り組みが行われている。 ○【2年間のまとめ】平成23年度から防災クラブ設置校を5校ずつ着実に増やしてきており、設置校では避難訓練や炊き出しなど、地域を巻き込んだり、活動や高年齢者宅での家具転倒防止器具の設置など、将来の防災の担い手を育成すべく取り組みが行われている。こうした活動を通して、高校生の防災に対する意識が上ってきている。今後、防災クラブ設置校を拡大していくとともに、中学校へもこうした活動を今後とも広げていく。	今後の取組及び方向性 地域と連携し、学校の特色を生かした学校防災ボランティア活動を展開し、避難訓練や避難所体験訓練に支援例として参画する。防災クラブ間で交流し活動の活性化を図っていく。 県立学校における「防災クラブ」の設置数については、県立高校を5校増やし計15校とし、県立中学校3校と市町村立中学校7校を増やし、中学校10校と高等学校15校の計25校で、避難所運営ができる知識や技能を習得させ、地域に根ざした防災活動を展開していく。 また、被災後の学校再開に向けた教材等の復旧や青空教室等の復旧に元教員の支援に元教員の支援を得て、円滑な再開を図るためにも人材登壇を進めていく。 ○【第2期計画】5-1-2「自然災害等から命を守る教育の推進」
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値															
—	—	—	—	5	10	100%	10															

番号	目標	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
82	教育の組織運営体制等の充実	<p>教育の組織運営体制等の充実</p> <p>○副校長等の新たな職の設置</p>	<p>事業目的 新たな職の設置により、学校運営における権限と責任が明確化され、校長のリーダーシップのもとに、学校の抱える課題に 対して迅速かつ的確で、組織的な対応を図る。</p> <p>取組状況 多様化・複雑化した学校の課題に対応するため、副校長、主幹教諭、指導教諭を配置した。 ○配置人数 副校長 4名 小学校 6名 中学校 5名 県立学校 5名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>設置</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>—</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>主幹教諭 16名 指導教諭 56名 副校長 4名 小学校 6名 中学校 5名 県立学校 5名</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】副校長、主幹教諭、指導教諭ともほぼ前年と同数を配置した。設置した学校では、原簿化した校務 の整理や学校組織の活性化、教職員の資質向上に役立っており、引き続き適任者を必要な学校に配置していくよう努力する。 ○【5年間のまとめ】新たな職を設置することにより、各学校の抱える課題に対して、校長を中心に組織的・機動的に対応 する体制を整備するとともに、教員の資質・能力の向上を目標としたきめ細かな校内研修等を推進することができた。 その職に適した優秀な人材の任用と適切な配置が今後の課題である。</p> <p>今後の取組及び方向性 新たな職の設置による学校の機能強化等の成果を踏まえ、校長のリーダーシップのもと、学校組織マネジメントのより一層 の充実を図り、教員が子どもと向き合う時間を確保できるように努めていく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	設置	推進	推進	推進	推進	—	推進
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	設置	推進	推進	推進	推進	—	推進												
83 新	教育の組織運営体制等の充実	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>次期「徳島県教育振興計画」の策定 ○計画の策定</p>	<p>事業目的 本県教育のめざすべき方向を明らかにするとともに、その実現に向けた施策を総合的かつ計画的に推進していくための指針 を策定する。</p> <p>徳島県教育振興審議会での審議、議決を経て「徳島県教育振興計画(第2期)」を策定した。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>策定</td> <td>達成</td> <td>策定</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24新規</p> <p>評価 ○【平成24年度の評価】「徳島県教育振興計画(第2期)」を策定し、平成25年度から平成29年度までの本県教育の指 針を示すことができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 5-5-2(徳島県教育振興計画の進捗管理)に継続し、「徳島県教育振興計画(第2期)」の着実な実施に向け、県民に 理解・共有・参画していただくため、計画の周知を図る。 ○【第2期計画】5-5-2「徳島県教育振興計画の進捗管理」【改善・見直しの実施】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	—	—	—	—	策定	達成	策定
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値												
—	—	—	—	—	策定	達成	策定												

基本方針4 人権尊重社会をめざす教育の実現

番号	目標	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																
84	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>「あわ」人権学習ハンドブックの活用促進 ○「あわ」人権学習ハンドブックの活用促進と指導内容・指導方法の改善・充実</p> <p>学校教育における人権教育の充実</p>	<p>事業目的 「あわ」人権学習ハンドブックは、「徳島県人権教育推進方針」に基づく具体的な人権教育を推進するための指導者用手引書として作成されており、より一層人権教育を推進していくために活用を促進する。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】今年度も学校教育や社会教育における人権教育指導者への活用促進を「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」とともに図っており、これらを活用した実践的な取組が数多く見られている。</p> <p>○【5年間のまとめ】「あわ」人権学習ハンドブックを活用した実践的な取組を人権教育課のホームページ上において広報したり、研修会等を通じて活用の促進を図ったりすることで、指導内容と指導方法の改善・充実を進めることができた。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>引き継ぎ、「あわ」人権学習ハンドブック及び「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」の積極的な活用を図り、学校教育及び社会教育の両面における人権教育のより一層の充実・発展を図る。特に研究指定校における実践事例を広く紹介することで、さらなる活用促進を図るとともに、指導内容や指導方法の改善・充実につなげる。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	目標値	—	推進	推進	推進	推進	推進	推進		
H19	H20	H21	H22	H23	H24	目標値												
—	推進	推進	推進	推進	推進	推進												
85	<p>事業名、数値目標実績</p> <p>人権教育研究校の指定 ○人権教育研究指定校</p> <p>学校教育における人権教育の充実</p>	<p>事業目的</p> <p>人権意識を培うための学校教育の在り方等について、幅広い観点から実践的な研究を行い、その成果の普及に努め、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>100%</td> <td>県指定 毎年度4校 文部科学省指定 毎年度4校</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】研究指定校においては、実践研究を深め、指導内容や指導方法の改善・充実を図ることができた。また、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、P.T.A.研修の充実にもつなげることができた。研究発表会の開催、人権教育課のホームページ上で情報発信などにより、人権教育についての成果を県内外に広げることができた。</p> <p>○【5年間のまとめ】研究指定を受けた学校(園)は、計画的・総合的に人権教育に取り組み、児童生徒や教職員、保護者の人権意識の高揚を図ることができた。また、P.T.A.研修や地域への人権啓発の充実にもつなげることができた。研究発表会を開催することにより、人権教育の推進についての成果を県内外に広げることができた。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>平成21年度からホームページ上に研究指定校の研究内容を掲載し、広く県内各校での実践に活用できるようにしている。今後とも、指定校における研究の充実に向けた支援に努めるとともに、様々な機会を捉えてその研究成果を広く、普及を図っていく。</p> <p>○【第2期計画】2-5-1「教育活動全体を通じた人権教育の充実」【人権教育研究校の指定校数】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	—	8	8	8	8	8	100%	県指定 毎年度4校 文部科学省指定 毎年度4校
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値											
—	8	8	8	8	8	100%	県指定 毎年度4校 文部科学省指定 毎年度4校											

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																								
86	<p>児童生徒の自主的な活動の推進</p> <p>○「心にひびく」とっておきのエピソード」への応募作品数(累計)</p> <table border="1"> <caption>「心にひびく」とっておきのエピソード」への応募作品数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>応募作品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H21</td> <td>1,544</td> </tr> <tr> <td>H22</td> <td>4,108</td> </tr> <tr> <td>H23</td> <td>7,316</td> </tr> </tbody> </table>	年度	応募作品数	H21	1,544	H22	4,108	H23	7,316	<p>事業名を「心にひびく」とっておきのエピソード」に乗り越えよう東日本大震災」とし、日常生活における人との出会いや出来事の中で、人権問題の解決に向けた思いや、人権尊重の精神が醸成されたエピソードに追加して、東日本大震災をとおして感じたことや人とのつながりなど大切なことを表現した作品を募集し、人権尊重の精神の涵養を図る。また、その作品を人権教育・啓発資料に活用することにより、県民一人ひとりが人権を尊重することはどのようなかを感じ取ることができ、人権が尊重される社会づくりに向けた態度や行動につながることを目的とする。</p> <p>人権尊重社会の実現に向けた取組として、家庭や学校、職場や地域などで自分自身が体験したことや人権尊重の思いにあふれたエピソード、特に平成23年度は東日本大震災を通して感じたことや人と人とのつながりなど大切なきっかけを表現したエピソードを作品として県内に広く募集した。また、その優れた作品をパネル等の資料にして、県内の様々な地域で行われる人権教育・啓発展で活用した。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,544</td> <td>4,108</td> <td>7,316</td> <td>-</td> <td>121.9%</td> <td>6,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成23年度 事業終了</p> <p>評価</p> <p>○【3年間のまとめ】県内各地より、幅広い層の世代から7,316点もの応募があった。優秀作品については啓発用パネルや作品集にし、「マナビイとくしくしま」人権教育・啓発資料展をはじめ、文化の森人権啓発展、JR駅構内、鳴門市、小松島市等の量販店などあらゆる機会において教育・啓発を行い、好評を得るとともに多くの感動を与えた。平成23年度は東日本大震災に関連する作品も併せて募集し、そのうち、19作品をパネルにし、宮城県内の小学校に贈呈した。また、女川町教育委員会と女川第一小学校には作品集を送付した。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>小学校人権教育資料「ひかり」や社会人権教育資料への作品掲載をはじめ、公民館・教育委員会等発行の広報誌への作品掲載など、学校教育及び社会教育における人権啓発資料として広く県民の方に触れたいだけだけでなく啓発を行う。また、様々な機会を捉えてパネル貸出の案内や作品展示を県内各地で行い、さらに県民の人権意識の高揚を図っていく。</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	1,544	4,108	7,316	-	121.9%	6,000
年度	応募作品数																									
H21	1,544																									
H22	4,108																									
H23	7,316																									
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																			
-	-	1,544	4,108	7,316	-	121.9%	6,000																			
87	<p>学校教育における人権教育の充実</p> <p>○「心にひびく」とっておきのエピソード」への応募作品数</p> <p>○応募作品数</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性</p> <p>「ありがとう」の気持ちを短く手紙(メッセージ)で表現した作品の募集を通じて、感謝の気持ちから生じる人と人とのつながりや大切さや人権尊重の重要性について考える機会を県民にももってもらい、人権尊重の精神の涵養を図る。また、その作品を人権教育・啓発資料に活用することにより、県民一人ひとりが「ありがとう」の気持ちや人権を尊重することはどのようなかを感じ取ることができ、人権が尊重される社会づくりに向けた態度や行動につながることを目的とする。</p> <p>人権尊重社会の実現に向けた取組として、家族や友人、職場や地域の人たちへの感謝の気持ちや人権尊重の思いが込められた短い手紙(メッセージ)作品を学校をはじめ図書館や公民館、隣保館などを通じて、県内に広く募集した。また、応募作品の中から選出した優秀作品(52点)をパネル等の資料にして、県内各地で開催する人権教育・啓発展で活用した。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5,064</td> <td>168.8%</td> <td>3,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>H24新規</p> <p>評価</p> <p>○【平成24年度の評価】県内の幼稚園児から大人の方まで5,064点もの作品応募があった。優秀作品については、啓発用パネルや作品集にし、「ヒューマンフェスタとくしくしま2012」、「マナビイとくしくしま」人権教育啓発資料展、「文化の森人権啓発展」及び県内各地で開催している人権教育啓発展示等、あらゆる機会において展示を行い、好評を得るとともに多くの感動を与え、社会における人権教育啓発に大きく寄与した。</p> <p>今後の取組及び方向性</p> <p>県内各地で開催している人権教育啓発展示や第5回全国人権・同和教育研究大会をはじめ様々な機会を捉えて作品パネルの展示や貸出を行うとともに、作品集を学校や図書館、公民館等の社会教育施設へ配付し、県民の人権意識の更なる高揚を図り、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるよう努める。</p> <p>○【第2期計画】2-5-1「教育活動全体を通じて人権教育の充実」【人権尊重の思いを伝える作品募集の応募作品数】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	-	-	-	-	-	5,064	168.8%	3,000								
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																			
-	-	-	-	-	5,064	168.8%	3,000																			

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性																																
88	<p>児童生徒の自主的な活動の推進 ○中・高生による人権交流集会への参加者数(累計)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th></tr> <tr><th>参加者数</th><td>542</td><td>1,047</td><td>1,527</td><td>2,050</td><td>2,466</td><td>2,878</td></tr> </table> <p>学校教育における人権教育の充実</p>	年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	参加者数	542	1,047	1,527	2,050	2,466	2,878	<p>事業目的 中学校・高等学校及び特別支援学校の生徒が交流し、人権について語り合うことをとおして、人権尊重の理念についての理解を深めるとともに、人権意識の高揚を図り、様々な人権問題を解決する実践力を身につけた生徒を育てることを目的とする。</p> <p>取組状況 中・高生が交流しながら、各ブロックで人権教育の理念についての理解を深める自主的な活動を推進した。また、「中・高生による人権交流集会」には412名の参加者があり、人権コンサートの後、分科会・全体会においてそれぞれの自主的な活動の成果を発表し、意見交換した。各ブロックの分科会では、「同和問題」「いじめ等身近な人権問題」「人権問題と自分との関わり」等のテーマで活動の発表・意見交換が行われた。</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>達成率</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>参加者数</td><td>542</td><td>1,047</td><td>1,527</td><td>2,050</td><td>2,466</td><td>2,878</td><td>95.9%</td><td>3,000</td></tr> </table> <p>評価 ○【平成24年度の取組】各ブロックにおいて生徒部会や実行委員会を実施し、先遣地研修や講演会等の活動や交流集会を通じて、中・高生の積極的な交流や意見交換及び研究活動が行われた。中・高生が一堂に会する交流集会には412名の参加があり、人権の意義やその重要性についての理解が深まるとともに、人権問題を鋭く見抜く感性の高まりが見られた。 ○【5年間のまとめ】毎年およそ500名の中・高生が参加し、人権コンサートや講演会、守則・人権クイズ、プレゼンテーション等の体験的参加型学習を活用した分科会を展開するなど、人権意識の高揚と実践力の育成を図るうえで充実した活動内容となっていた。多くの学校へ参加依頼を行うとともに、参加しやすく充実した活動となるよう工夫改善に努める。</p> <p>今後の取組及び方向性 今後とも、各ブロックでの活動や先遣地研修を重ねたりうえで人権交流集会を実施し、人権について語り合うことを通して、人権意識の高揚を図り、人権問題解決に向けた実践力を身につけた生徒の育成に努める。参加者数・参加校数については、中学・高校の参加校を固定化し、参加数はやや減少傾向にある。事業内容の点検・評価をふまえて、中・高生が「中・高生による人権交流集会」により参加しやすいう内容・日程・会場等となるよう改善に努め、目標値の達成をめざしたい。 ○【第2期計画】2-5-2「自主的な活動の推進」【中・高生による人権交流集会参加人数】</p>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	参加者数	542	1,047	1,527	2,050	2,466	2,878	95.9%	3,000
年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24																												
参加者数	542	1,047	1,527	2,050	2,466	2,878																												
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																										
参加者数	542	1,047	1,527	2,050	2,466	2,878	95.9%	3,000																										
89	<p>生涯にわたる学習機会の充実 ○生涯にわたる人権教育の学習機会の充実</p> <p>社会教育における人権教育の充実</p>	<p>事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性 同和問題をはじめ様々な人権問題の解決と職字学級相互の交流及び学校や社会教育団体等との交流活動を積極的に推進するとともに、社会啓発活動の促進を図ることを目的とする。</p> <p>事業目的 5市1町16学級の職字学級が活動している。職字学級では、文字の習得のみにとどまらず、生活や文化を豊かにするための学習内容を盛り込むなどの生涯を貫通した取組が行われている。また、職字学級間や学校等との交流活動、さらには、外国人や障害者等の参加に伴って、同和問題をはじめ様々な人権問題についての学習が行われている。</p> <p>取組状況</p> <table border="1"> <tr><th>項目</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th><th>H24</th><th>達成率</th><th>目標値</th></tr> <tr><td>参加者数</td><td>-</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td>推進</td><td>-</td><td>推進</td></tr> </table> <p>評価 ○【平成24年度の取組】文字の習得や生活や文化を豊かにする取組や学校や職字学級間との交流も行き、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決を図られている。 ○【5年間のまとめ】職字学級交流では、読み書き能力の向上を図り、社会生活に適応できる能力を身につけるための学習はもとより、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決へと広がりをもち、積極的な交流活動を行うことができた。</p> <p>今後の取組及び方向性 今後とも生涯にわたる学習機会への充実を図るとともに、同和問題をはじめ様々な人権問題の解決に向けての理解を深めるために、職字学級間の交流や職字学級に学ぶ交流学習の充実を図っていく。 ○【第2期計画】3-4-1「生涯学習の視点に立った人権教育の充実」【生涯にわたる人権に関する学習機会の充実】</p>	項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	参加者数	-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進														
項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																										
参加者数	-	推進	推進	推進	推進	推進	-	推進																										

番号	事業名、数値目標実績	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性
90	生涯にわたる学習機会の充実 ○大学生の人権サークルと子どもたちとの交流を図る 【あつたかハートつながり隊・ひろがり隊】の派遣回数(累計)	事業目的 人権の視点に立った活動をしている大学生のサークル等が、交流・活動するなかで青年層の人権意識の高揚を図り、「あつたかハートつながり隊・ひろがり隊」を組織し、各学校(園)等に派遣、活動することによって人権教育の推進に資する。
	取組状況 	取組状況 大学生のサークル等による青年の相互交流や研修会、青年と子どもたちとの交流を行った。大学との緊密な連携を図る中、3大学5サークルが幅広い要請に応じた交流活動を実施した。
	評価	評価 ○【平成24年度の評価】平成24年度からゼロ予算事業となったことに伴い、ボランティア保険への加入を事業参加の条件としたことから、参加サークルが3大学5サークルに減少した。さらに、依頼先に交通費の支給を義務づけたことから、依頼数も大幅に減少した。 ○【3年間のまとめ】人権の視点で活動しているサークルを、主に幼児・児童の人権交流活動に派遣し、人権教育のより一層の充実を図るための活動ができた。要請は数多くあったが、サークルとの日程調整に苦慮することがあった。
	今後の取組及び方向性	今後の取組及び方向性 平成24年度より「あつたかハートつながり隊・ひろがり隊」事業をゼロ予算事業に交差したところであるが、これまでの活動の成果を踏まえながら、今後も子どもたちとの交流の充実と大学サークルの相互交流に努め、本事業に継続して取り組んでいく。 ○【第2期計画】3-4-1「生涯学習の視点に立った人権教育の充実」【人権の視点に立ったサークル活動や交流の回数】
91	指導者の養成と資質の向上 ○人権教育指導員の派遣回数(累計)	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性
	事業目的	事業目的 人権教育指導員を選任し、各学校及び市町村教育委員会等が主催する研修会等において指導助言を行うことにより、県民の人権意識の高揚を図り、もって徳島県人権教育推進方針に基づく人権教育を推進し人権尊重社会の実現に資する。
	取組状況	取組状況 50名の徳島県人権教育指導員を委嘱し、各学校及び市町村教育委員会等が主催する研修会等において、個別人権課題や普遍的な視点についての指導助言を行った。毎年約300回の派遣依頼がある。より一層、様々な人権問題や今日の課題に対応できるようにするために、指導員の選考を行い、幅広い要望にも応じられる体制を整えた。
	評価	評価 ○【平成24年度の評価】豊かな知識や経験や経歴を有する人権教育指導員を校内研修等の講師として派遣し、人権に関する知識・理解を深め、指導力や実践力の向上を図ることができた。 ○【15年間のまとめ】人権教育を推進する上で、各学校や市町村教育委員会からの制度活用は高く、毎年約300回の派遣依頼がある。個別人権課題や普遍的な視点についての指導を行うことにより、人権教育の推進を図ることができた。ただ、依頼のない指導員もあり、学校や市町村教育委員会に、可能な限り個別12課題を取り上げてもうようように周知する必要がある。
	今後の取組及び方向性	今後の取組及び方向性 今後も、より一層、様々な人権問題や今日の課題であるインターネットによる人権侵害やいじめ問題等に対応できる指導員の選考に心がけるとともに、幅広い研修の要望にも応えられる体制を整える必要がある。人権教育指導員の連絡会において、今日的な課題についての研修を加えるなどし、指導力の向上に努めるとともに、情報交換を行い、各指導員による研修内容の充実につなげる。 ○【第2期計画】2-5-1「教育活動全体を通じた人権教育の充実」【人権教育指導員の派遣要請の回数】

92	事業名、数値目標実績 指導者の養成と資質の向上 ○社会教育における人権教育推進者の養成数(累計)	<table border="1" style="display: none;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>養成数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>H19</td><td>51</td></tr> <tr><td>H20</td><td>108</td></tr> <tr><td>H21</td><td>171</td></tr> <tr><td>H22</td><td>228</td></tr> <tr><td>H23</td><td>280</td></tr> <tr><td>H24</td><td>333</td></tr> </tbody> </table>	年度	養成数	H19	51	H20	108	H21	171	H22	228	H23	280	H24	333	事業目的と平成24年度の取組状況、評価(含:これまでのまとめ)、今後の取組及び方向性	<p>徳島県人権教育推進方針に基づき、社会教育における人権教育の推進を図るため指導者の育成、確保等を総合的、体系的に図る指導者研修会を実施する。</p> <p>社会教育における人権教育を推進するため、市町村から推薦のあった推進担当者33名を対象として2日間の継続研修を実施した。文部科学省指定の人権教育総合推進地域事業の視察でのまちづくりの講演、市町村における取組についての情報交換を行うとともに、体験的参加型によるフィールドワーク研修等を行い、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>達成率</th> <th>目標値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>51</td> <td>108</td> <td>171</td> <td>228</td> <td>280</td> <td>333</td> <td>104.1%</td> <td>320</td> </tr> </tbody> </table> <p>○【平成24年度の評価】6月に「社会教育における人権教育指導者研修会」を2日間開催した。その中で、講演会や体験的参加型による研修を実施し、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。各市町村の諸事業にどのように反映したかを把握する必要がある。</p> <p>○【5年間のまとめ】情報共有や意見交換を通して、人権教育推進者の資質の向上と指導力の強化を図ることができた。今後とも人権教育推進者の養成と確保に努めていく。</p> <p>研修の成果をより深め、広めることができるよう、各市町村2名の参加者の出席についても引き続き働きかけるとともに、体験的参加型研修を実施し、社会教育における人権教育推進者の資質の向上と計画的な推進者の確保につなげていく。</p> <p>○【第2期計画】3-5-1「人権教育推進者の養成」【社会教育における人権教育推進者の養成教】</p>	H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値	51	108	171	228	280	333	104.1%	320
年度	養成数																																	
H19	51																																	
H20	108																																	
H21	171																																	
H22	228																																	
H23	280																																	
H24	333																																	
H19	H20	H21	H22	H23	H24	達成率	目標値																											
51	108	171	228	280	333	104.1%	320																											